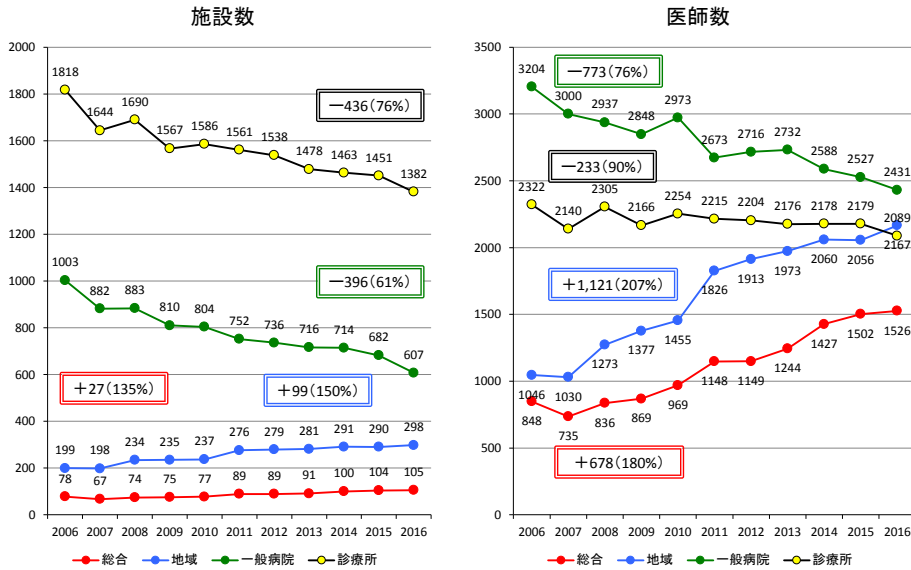
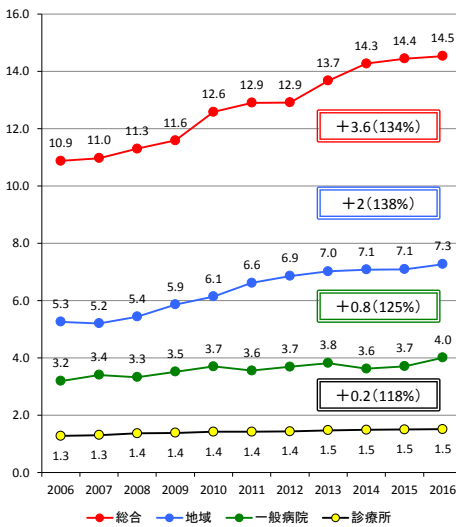


分娩取り扱い施設数と医師数の推移

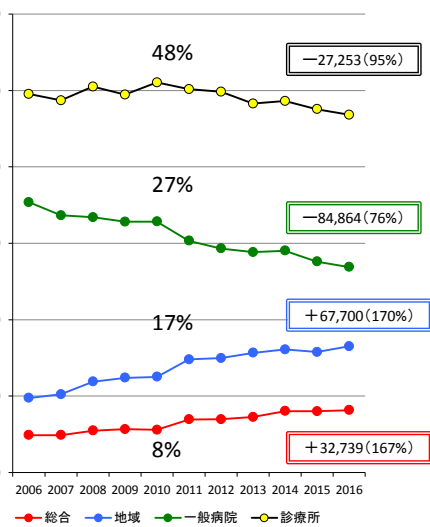


施設数、医師数とも、周産期センターが増加し、一般病院が減少している。

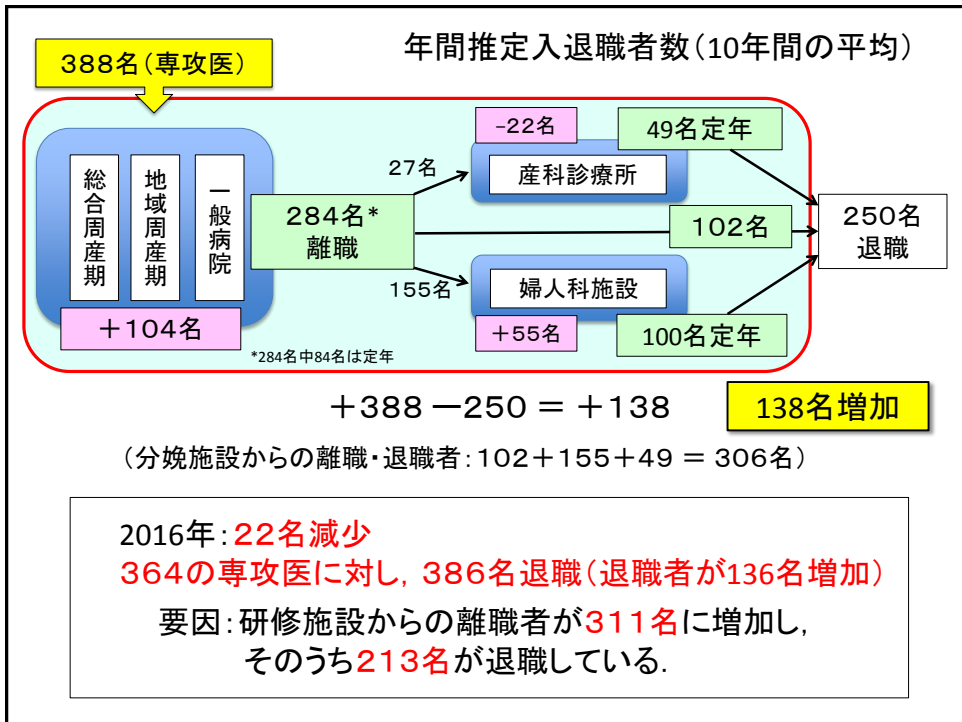
施設当たりの医師数



取扱分娩数



全ての施設で、施設当たりの医師数は増加している。
一般病院の取扱い分娩数は減少しているが、周産期センターでは毎年約7%程度増加し、診療所と周産期センターへの二極化が進んでいる。



自治体ごとの医師数とその増減(1)

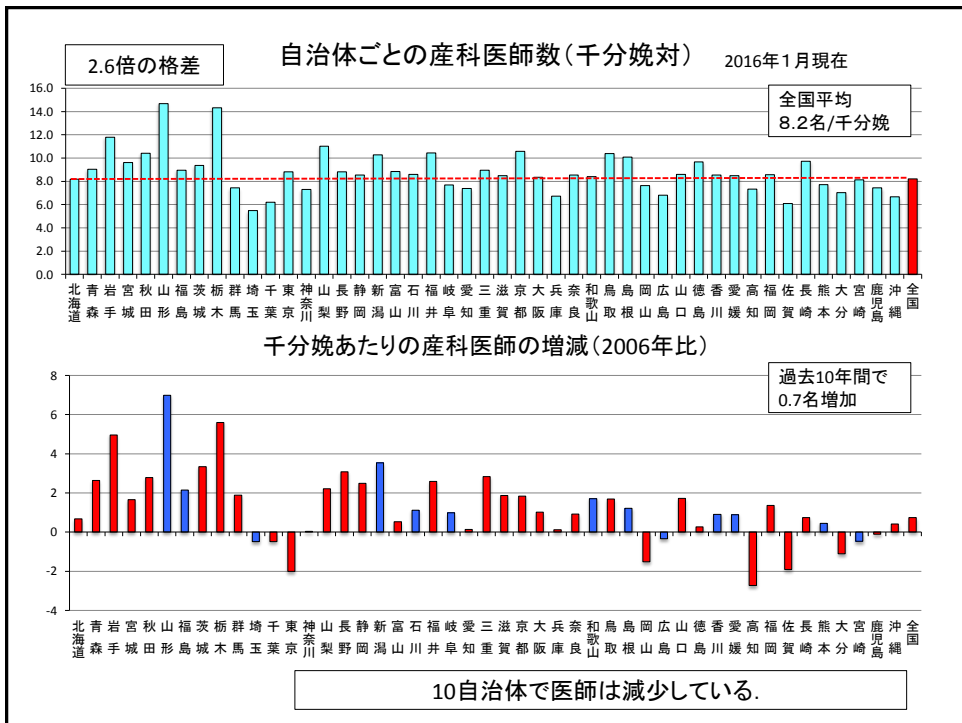
	専攻医数*	退職者数*	産科医/千分娩 (2006年)	産科医/千分娩 (2016年)	産科医/千分娩 (10年間平均)	過去10年間の 分娩数変化(%)
北海道	12.7	6.7	7.5	8.2	7.6	-11.4
青森	3.9	1.4	6.4	9.0	7.6	-18.1
岩手	3.5	1.9	6.8	11.8	9.1	-16.4
宮城	7.1	4.2	8.0	9.6	7.7	-6.9
秋田	2.8	1.6	7.6	10.4	10.1	-23.9
山形	3.1	4.2	7.7	14.7	9.5	-16.3
福島	3.1	4.2	6.8	8.9	6.7	-19.1
茨城	3.5	2.2	6.0	9.4	6.8	-10.5
栃木	6.1	3.9	8.7	14.3	9.8	-11.8
群馬	4.4	4.3	5.5	7.4	7.1	-16.8
埼玉	11.2	15.3	6.0	5.5	5.5	-6.1
千葉	12.9	13.1	6.7	6.2	6.4	-7.1
東京	85.6	18.9	10.8	8.8	8.9	17.2
神奈川	24.4	17.7	7.3	7.3	6.6	-3.6
山梨	2.3	1.9	8.8	11.0	8.5	-16.3
長野	5.6	3.9	5.7	8.8	7.3	-15.5
静岡	10.2	7.1	6.0	8.5	6.8	-11.1
新潟	4.4	4.9	6.8	10.3	7.6	-11.7
富山	2.8	1.9	8.3	8.9	8.2	-15.7
石川	2.4	3.9	7.5	8.6	8.0	-9.7
福井	2.3	1.5	7.8	10.4	8.9	-12.8
岐阜	3.5	4.7	6.7	7.7	7.7	-12.7
愛知	25.8	12.2	7.2	7.4	7.0	-2.2
三重	4.4	4.2	6.1	9.0	6.9	-9.1

*10年間の平均

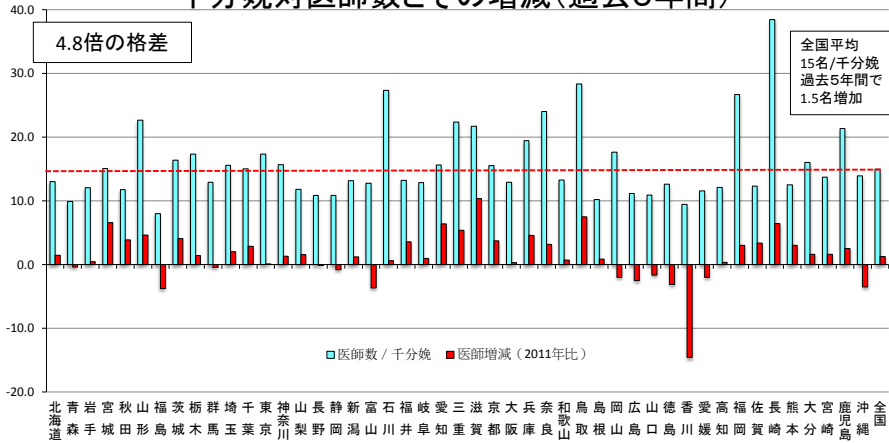
自治体ごとの医師数とその増減(2)

	専攻医数*	退職者*	産科医/千分娩 (2006年)	産科医/千分娩 (2016年)	産科医/千分娩 (10年間平均)	過去10年間の 分娩数変化(%)
滋賀	3.7	2.1	6.6	8.5	6.8	-2.1
京都	13.2	7.8	8.7	10.6	8.8	-8.9
大阪	34.5	19.6	7.3	8.3	7.2	-7.2
兵庫	12.4	11.2	6.6	6.7	6.4	-6.9
奈良	3.8	2.8	7.6	8.5	7.5	-12.1
和歌山	2.2	3.3	6.7	8.4	7.7	-10.3
鳥取	1.3	1.4	8.7	10.4	10.3	-7.7
島根	1.5	2.9	8.9	10.1	9.8	-2.6
岡山	8.0	4.4	9.1	7.6	8.0	-6.5
広島	4.6	6.3	7.1	6.8	6.8	-4.3
山口	2.9	2.9	6.9	8.6	7.9	-10.0
徳島	3.0	2.5	9.4	9.7	9.9	-5.5
香川	1.0	1.6	7.7	8.6	8.1	-11.1
愛媛	2.4	3.5	7.6	8.5	8.1	-12.0
高知	1.5	1.5	10.1	7.3	8.8	-14.6
福岡	19.9	10.9	7.2	8.6	7.4	4.2
佐賀	2.2	1.2	8.0	6.1	8.0	-5.9
長崎	3.8	3.6	9.0	9.7	9.2	-9.3
熊本	3.1	4.1	7.3	7.7	7.5	-0.4
大分	2.3	1.9	8.1	7.0	7.9	-6.8
宮崎	2.4	2.8	8.6	8.1	7.9	-5.3
鹿児島	3.5	3.4	7.5	7.4	7.1	-4.8
沖縄	6.3	2.5	6.3	6.7	6.2	5.1
全国	387.5	250.0	7.5	8.2	7.5	-5.4

過去10年間, 15自治体(32%)で医師は減少している。



周産期母子医療センターにおける 千分娩対医師数とその増減(過去5年間)



自治体間で分娩数あたりの周産期センター医師数を大きく異なり、
12自治体で医師は減少している。

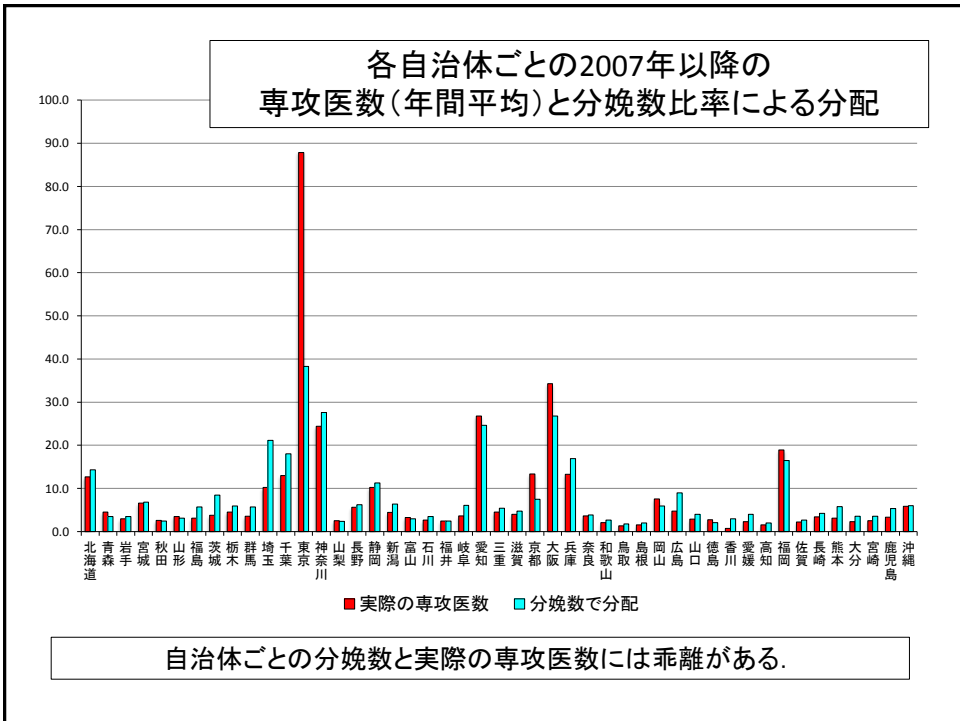
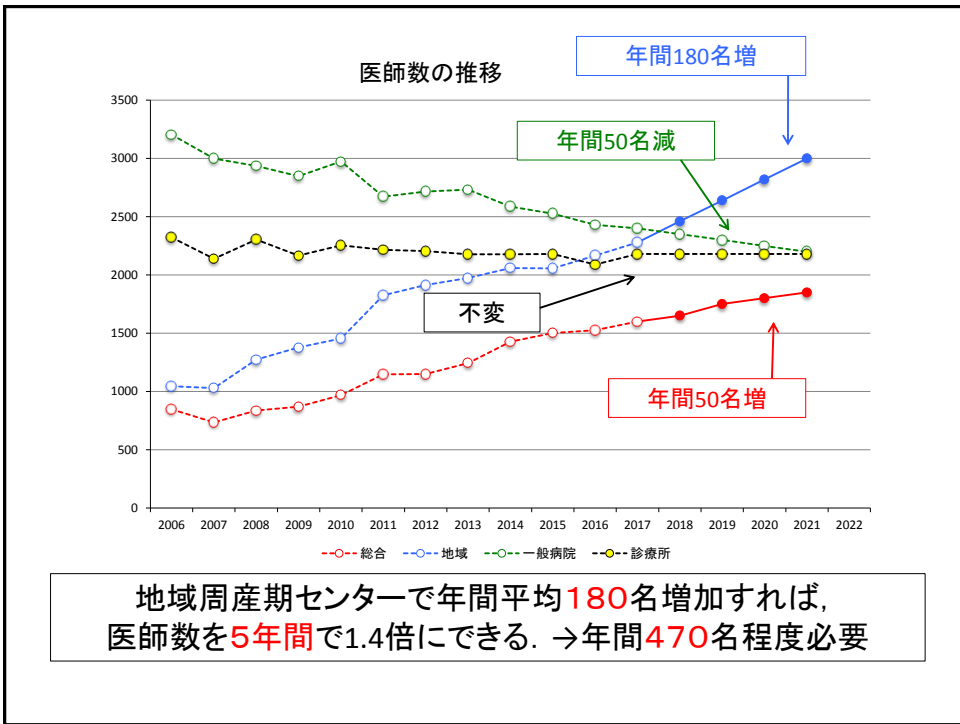
周産期母子医療センターの勤務環境からみた必要医師数

周産期母子医療センターの男女別年齢構成

	総合周産期		地域周産期	
	男性	女性	男性	女性
施設当たりの医師数	7.6	6.7	4.0	3.1
当直・日直回数*	当直	日直	当直	日直
全員	3.1	1.0	5.1	1.7
高齢者、女性免除**	4.2	1.4	7.0	2.3

* 総合は2名当直、地域は1.5名で算出 (平成26年日本産科婦人科学会会員勤務実態調査)
**55歳以上、女性35-44歳は日直免除

地域周産期センターの当直・日直回数を総合なみにするには
施設数を**60%**に削減(291施設→175施設)
医師数を**1.4倍**に増加させる
(2100名, 7.1名/施設→3000名, 9.9名/施設)



地域医療供給体制からみた必要医師数

算定条件

- ・年間全国で300名の医師が分娩取扱いをやめている.
- ・分娩数の比率で各自治体に医師を配分すると仮定する.
- ・分娩比率の低い自治体でも最低1名は増加する.

例:青森県

分娩数: 9,633件(10年間平均),
 全国の分娩数に対する割合: 0.91%

専攻医**390**名の場合(300名が分娩をやめているため)
 分娩施設の実際の増加は**90**名

$$90 \times 0.0091 = \mathbf{0.8名}$$

1名確実に増員するためには

$$1 \div 0.0091 = \mathbf{110名} \rightarrow 110 + 300 = \mathbf{410名}$$

分娩数5000件前後の自治体(分娩比率0.5%)で1名以上増員するには**500名**程度必要になる.

自治体ごとの必要医師数

	実際の 専攻医数	退職者に 応じた必要数	分娩数に 応じた必要数		実際の 専攻医数	退職者に 応じた必要数	分娩数に 応じた必要数
北海道	13	14	19	滋賀	4	4	6
青森	4	3	5	京都	13	16	10
岩手	4	4	5	大阪	35	40	35
宮城	7	8	9	兵庫	12	23	22
秋田	3	3	3	奈良	4	6	5
山形	3	8	4	和歌山	2	7	4
福島	3	8	7	鳥取	1	3	2
茨城	4	5	11	島根	2	6	3
栃木	6	8	8	岡山	8	9	8
群馬	4	9	8	広島	5	13	12
埼玉	11	31	28	山口	3	6	5
千葉	13	26	24	徳島	3	5	3
東京	86	38	50	香川	1	3	4
神奈川	24	36	36	愛媛	2	7	5
山梨	2	4	3	高知	2	3	3
長野	6	8	8	福岡	20	22	22
静岡	10	14	15	佐賀	2	2	4
新潟	4	10	8	長崎	4	7	6
富山	3	4	4	熊本	3	8	8
石川	2	8	5	大分	2	4	5
福井	2	3	3	宮崎	2	6	5
岐阜	4	10	8	鹿児島	4	7	7
愛知	26	25	32	沖縄	6	5	8
三重	4	8	7	全国	388	500	500

産婦人科医師の動向と必要医師数

動向

- ・過去10年間出生数は、毎年平均0.5%減少している。
- ・2009年以降、産婦人科医師数は増加傾向であったが、近年横ばいで、本年1月には、**昨年比で減少**に転じている。
- ・過去10年間、15自治体(約32%)で医師は減少している。
- ・施設数、医師数、分娩数とも、周産期センターが増加し、一般病院が減少し、診療所と周産期センターへの二極化が進んでいる。

必要医師数

- ・産婦人科を専攻する後期研修医は年間平均388名で、自治体ごとの分娩数と実際の専攻医数には乖離がある。
- ・周産期センターの就労環境と地域医療供給体制を改善するため、年間**470名**から**500名**程度の産婦人科医師が必要になる。

今後の課題

- ・二極化が進む中、地域医療を支える診療所の確保と周産期センターの人材確保が急務である。
- ・他職種(助産師、看護師、MSW、臨床心理士など)との協働により、診療所のバースセンター的役割を強化、周産期センターの機能確保に努める。
- ・リスクに応じた施設の選択を啓発する。

施設ごとの医師年齢

参考資料1

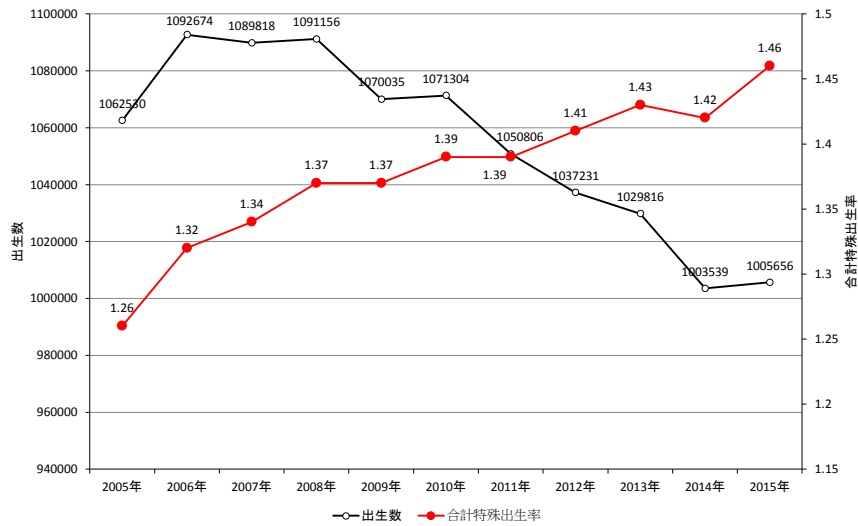
		平均年齢	中央値	
			50%tile	90%tile
全分娩施設	total	46.0	43	64
	男性	50.8	49	67
	女性	37.5	34	48
総合周産期母子医療センター	total	38.6	35	52
	男性	41.9	39	56
	女性	34.9	32	43
地域周産期母子医療センター	total	40.4	37	56
	男性	44.4	42	61
	女性	35.2	32	44
一般病院	total	47.0	44	64
	男性	51.8	51	66
	女性	38.8	36	50
診療所	total	57.6	54	76
	男性	59.4	57	76
	女性	47.9	43	63
婦人科施設	total	60.1	59	80
	男性	63.1	62	81
	女性	50.9	47	71

日本産科婦人科学会会員の勤務実態調査2014

過去10年間の出生数の推移

厚生労働省 人口動態・保健統計課「人口動態調査」

参考資料2

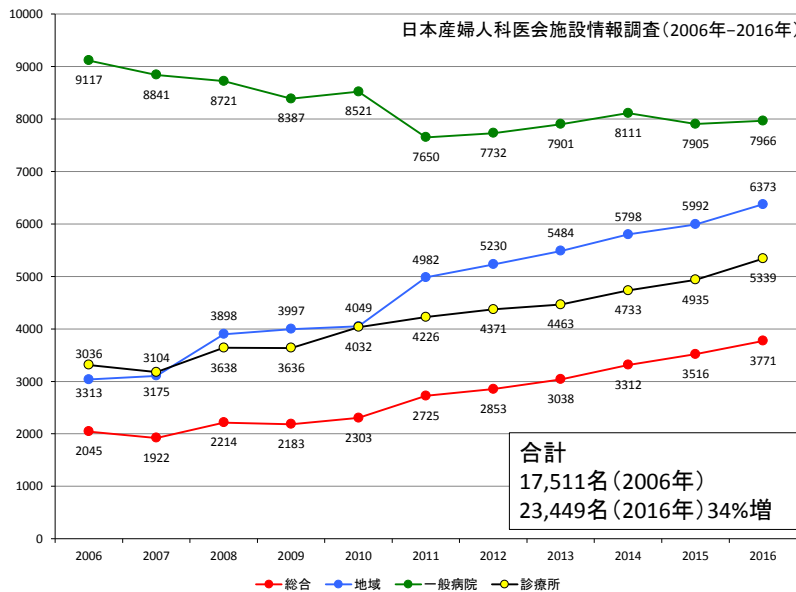


全国の分娩数は毎年0.5%低下している。

施設ごとの助産師数の推移

日本産婦人科医会施設情報調査(2006年-2016年)

参考資料3



合計
17,511名(2006年)
23,449名(2016年)34%増